

第2期大洲中学校区小中一貫教育推進計画

ふるさと大洲に誇りを持って

未来を切り拓く子の育成に向けて



令和6年3月

大洲中学校区小中一貫教育推進協議会

目 次

I	計画策定にあたって	ページ
1	本計画の位置づけ	1
2	これまでの経緯	2
3	成果と課題	3
II	大洲中学校区小中一貫教育方針	
1	大洲中学校区で育てたい子供像	5
2	推進方法	6
3	推進形態	6
III	具体的な取組	
1	取組内容	7
IV	計画年次	
1	計画の期間	11
V	資料	
1	学校運営協議会委員名簿	12
2	用語解説	13

I 計画策定にあたって

1 本計画の位置づけ

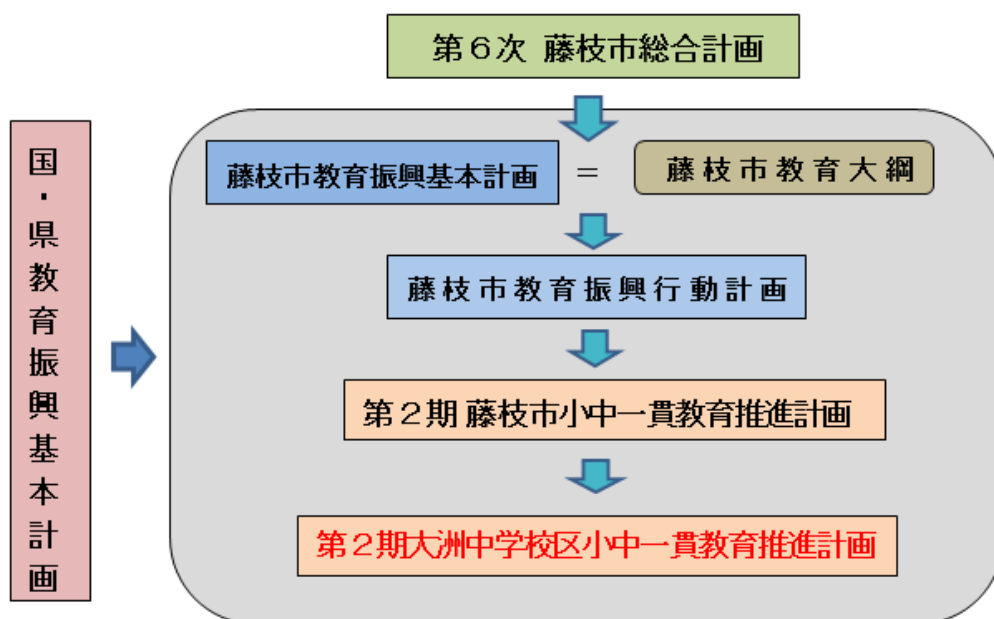
小中一貫教育は、「第6次藤枝市総合計画」における7つの基本目標の内の1つである「子供が健やかに学び、育つ藤枝づくり」の「学校教育の充実」の中の施策として、「小中一貫教育の推進」を位置づけています。

また、「藤枝市教育大綱」や「藤枝市教育振興基本計画」においても「一人ひとりの子供に未来を生き抜く力を育てる」ことを目標とし、目標実現のための具体的な取り組みを示す「藤枝市教育振興行動計画」に小中一貫教育の推進を掲げています。

「藤枝市小中一貫教育推進計画」は、今後の本市における小中一貫教育を推進するための基本理念や基本方針及び取組事項を定めており、これを受けて中学校区ごとに小中一貫教育推進計画を策定しています。

本計画は、「中学校区小中一貫教育推進計画」の大洲中学校区版となるもので、前計画における5ヵ年計画での取組・実践を踏まえて、学校運営協議会で協議を重ね策定し、「第2期大洲中学校区小中一貫教育推進計画」として位置づけます。

大洲中学校区小中一貫教育推進計画の位置づけ



2 これまでの経緯

平成 23 年度から始まった藤枝市小中学校連携ドリームプラン事業^{*1}では、道徳教育を柱とした中学生による読み聞かせや、道徳を他教科に関連づけての活動などを継続的に行ってきました。

令和元年度からは小中一貫教育をスタートさせ、育てたい子供像を小中学校教職員だけではなく、保護者や地域の方々にも御理解いただき、子供一人ひとりの良さを生かし、伸ばすことを心がけながら取り組んできました。

授業においては藤枝市小中一貫教育カリキュラムを活用し、9年間というスパンを意識して日々の授業を充実させてきました。

異年齢交流活動については、中学生による小学生への読み聞かせや小中合同あいさつ運動など、子供同士のふれあいを大切にし、小学生が中学生へあこがれの念を抱いたり、中学生が中学生としての自覚や下級生をいたわる気持ちを高めたりしてることができました。

そして、地域の人材が総合的な学習の時間や道徳の授業等の外部講師として子供たちに御指導してくれたり、地域のイベントで小中学生がボランティアとして参加する中で、地域の方々が温かい御指導をしてくれたりすることにより、地域の一員としての自覚も子供たちの中に芽生えてきました。

その結果、大洲の子供たちに自己肯定感や思いやりの心が育ち、心豊かな大洲の子に成長してきました。このように、これまで大洲中学校区学校運営協議会の助言を受け、大洲小中学校で取り組んできたことが、子供の成長にとって成果として表れてきており、今後さらに小中一貫教育を進めていくことで、社会性や人格形成、学力面など多方面にわたっての子供の成長が期待できます。



(中学生による読み聞かせ)



(中学生参加による地域HUG講座)

3 成果と課題

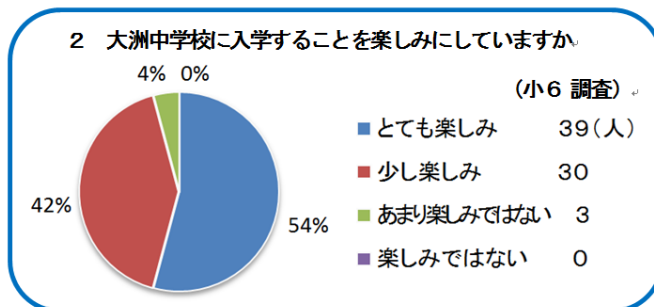
〔成果〕

藤枝市教育委員会が小学校6年生を対象とした「小中一貫教育アンケート」において、大洲中学区では「中学入学に対して不安がない児童の割合」が79.52%でした。

その後、2月下旬に大洲中学校の校長が大洲小学校へ赴いて小学校6年生に学校説明を行い、同様な質問をしたところ、90.54%が「とても楽しみ」「少し楽しみ」と回答しました。更に、「大洲中学校に通うことを楽しみにしているか」という質問に対しては、実に95.84%の児童が「とても楽しみ」「少し楽しみ」と回答しています。

これら児童による評価は、大洲中学校区が今日まで丁寧に小中一貫教育を推進し、児童及び保護者の、いわゆる「中一ギャップ」*2への不安を払拭しようと努力してきた成果と捉えています。同時に、中学校へ入学してくる児童や保護者の期待を裏切らないよう、小中学校が一丸となって魅力ある教育活動を展開していく重要性を改めて実感しました。

また、年度末に行った「地域や社会を良くするために、何をすべきか、考えることがある生徒の割合（中3）」というアンケートの結果は100%でした。これは総合的な学習の時間に中学3年生が大洲地区をテーマに探究活動を行ったことが大きく影響しています。以下に示すように、大洲地区は中学生の地域行事への参画意識が高く、地域防災訓練や地域行事へのボランティア参加に積極的であることも大いに関係があると考えます。



(1) 社会的資質の向上

「育てよう（地域愛、他人に対する思いやり、自主性）」

「作ろう（子供を伸ばす機会やきっかけ）」

をテーマにして、家庭・地域・学校の連携・協働により、子供たちの社会参加の機会を充実させる中で、社会性を育成するよう取り組みました。

特に、「地域の人との交流機会の拡大」を目指し、地域のイベント（ふれあい祭りやスポーツの集い）に中学生ボランティアを多数参加させることで、地域愛を育むと共に、地域の方々の行事に取り組む姿が子供たちの良き手本となるようにしました。

また、「“笑顔”であいさつ日本一」を目指し、校内の取組が、小中学校で連携した取組や保護者を巻き込んだ取組になるよう、各校のPTAとも協働しながら展開させていくことができました。

(2) 確かな学力の習得

授業を充実させ、9年間を見通した系統的・継続的な学習指導により、子供の学習意欲の向上や学習習慣の確立を図り、確かな学力を育成しました。

当初、理科の授業において、中学校教員が小学校へ赴いて授業を行う、いわゆる「乗り入れ授業」*3を展開しました。しかし、日課の違いや移動に関わる通勤の課題が大きく、この課題については人事異動に反映させることで改善させました。結果、小学校に中学校教育の専門性や系統性を重んじる考

え方が導入されました。また、小中合同研修会において、小学校の授業の良さを中学校教員が学ぶ機会となっていました。

なお、ここ数年は、英語教育の充実を図り、語学力を育成するため、小学校に英語専科の教諭を配置し、小学校の教科担任制と英語科における中一ギャップの軽減に寄与しています。

(3) 豊かな人間性の育成

小中学校連携ドリームプラン事業で積み上げた道德教育を通して、児童生徒間の多様な交流活動や地域との交流により、豊かな人間性や思いやりの心を育みました。

特に、小学校の「ふわぽか活動」による人権感覚の醸成や中学校の「ふじえだ型ピア・サポート活動」*4の充実等の校内での重点的な取組に加え、小中合同あいさつ運動や中学生による小学生への読み聞かせ活動等を通し、異年齢交流活動の強化にも努めました。

また、地域の人材を総合的な学習の時間等の外部講師として招き学ぶことで、地域のことをより深く知り、誇りをもって地域の一員として生活する基盤を作ることができました。

(4) 地域を担う人材の育成

家庭・地域・学校等が一体となった教育環境づくりを推進し、地域に自信と誇りをもち、地域に貢献する人材を育成しました。

特に「あいさつ」は、小学校の児童会、中学校の生徒会の協働から、各校のPTAを巻き込み、最終的には「地域ぐるみのあいさつ運動」に展開するように取り組みしました。

また、地域との交流の機会を広めるように、地域の「ふれあい祭り」や「スポーツの集い」に中学生がボランティアとして参加したり、地域の防災訓練に小中学生が積極的に参加し活動したり、年2回のリサイクル活動を小中のPTAが協働で実施したりしました。

なお、引き続き「学校サポーターズクラブ」*5や地域諸団体と連携しながら、地域の人材が学校に関わる機会（授業ボランティア、読み聞かせ、職業講話等）の拡大に努め、地域と学校が一体となって子供の育ちに携わる体制がより確かなものとなりました。

(5) 教職員の指導力向上

合同研修会や合同授業研修会、小中学校教職員の交流を通し、小中学校教職員が相互理解を深め、9年間を見通した教育を展開しました。

特に「小中学校合同研修会の充実」や「教職員の専門性の向上」のために、対面やICTを活用した情報共有に努めました。この取組により、小中の学びを繋いだり、子供観や指導観を共有したりすることで、それぞれの学校の良さを教員が自身の授業へ還元できるようになりました。

〔課題〕

新型コロナウイルス感染症拡大の時期とも重なり、家庭・地域・学校の連携・協働により、子供たちの社会参加の機会を充実させ、社会性を育成することが難しいようきょうでした。また、形骸化してしまった取組もあり、今後、「withコロナ」や「少子高齢化」などの社会情勢や直面する課題に対して、小中一貫教育やコミュニティ・スクール*6の目的を再分析し、それに向けた取組に着手していく必要があると感じています。

Ⅱ 大洲中学校区小中一貫教育方針

1 大洲中学校区で育てたい子供像

本地区では、本市が目指す「未来を生き抜く力の育成」のために、地区の子供たちの実態に即しながら、地域の願いを込めたキャッチフレーズと、小学校と中学校の教職員が相互に連携・協働しながら、小学校と中学校が一貫して育てたい子供像を設定しました。

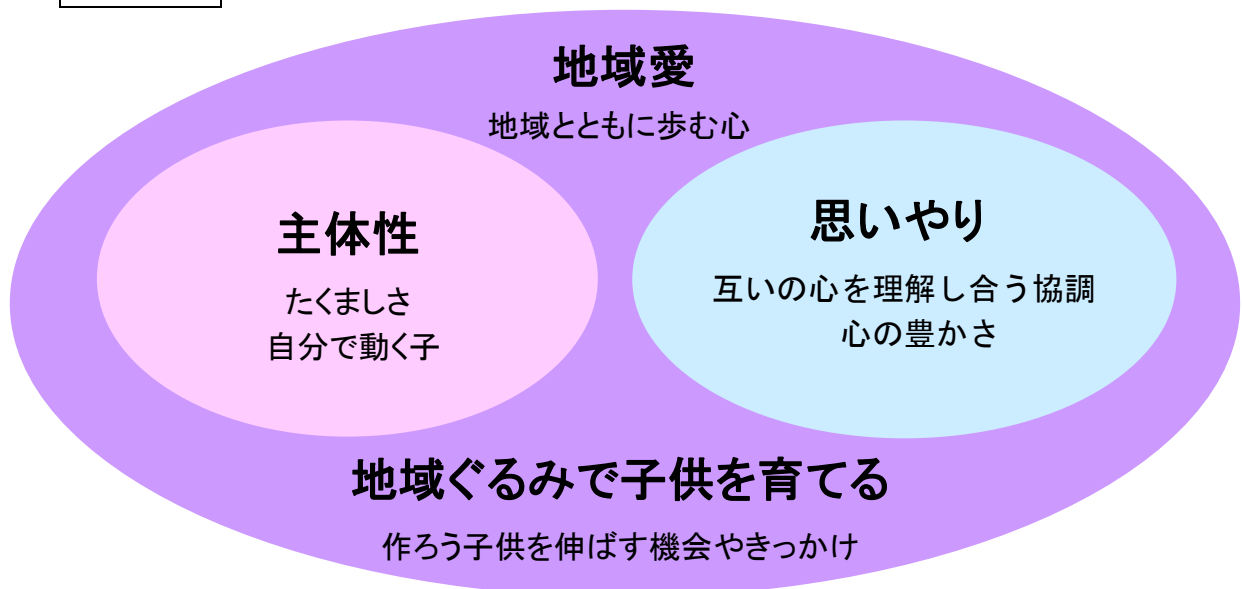
安定した地域力を基盤に、従来から本地区は学校と地域の連携が密で、常に他地区のモデルとなってきました。そして、それをさらに発展させ、コミュニティ・スクール^{*6}を導入し、様々な体験や交流を通し、子供の可能性を引き出し、伸ばす、そして地域ぐるみの9年間の教育を通して郷土への愛着を感じ、地域を担う人材を育成することを目指してきました。

今後は、これを家庭や地域とも共有し、地域総ぐるみでさらなる充実のもと子供の育ちを支援していきます。

キャッチフレーズ

『ふるさと大洲に誇りを持って 未来を切り拓く子の育成に向けて』

キーワード



大洲小中学校が9年間の教育を通して育てたい子供像

自立 共生 夢 挑戦 （自ら高め 共に生きる）

- 1 自ら考え判断し行動できる子供（力いっぱい） <自立>
- 2 お互いを認め共に高め合う子供（やさしさいっぱい） <共生>
- 3 目標を持ち、夢実現のために全力で取り組む子供 <夢 挑戦>

2 推進方法

本地区においても、第2期藤枝市小中一貫教育推進計画に合わせ、以下の項目に沿った「Ⅲ 具体的な取組」(P7～)事業を展開していきます。

第2期藤枝市小中一貫教育推進計画の推進方法

(1) 社会的資質の向上 ～ ふれあいでつなぐ ～

コミュニティ・スクールでの家庭・地域・学校等の連携・協働により、子供たちの社会参加の機会を充実させ、地域の人と触れ合う体験をする中で、自己肯定感^{*7}(自尊感情)を高め、社会を生き抜くたくましさ、社会の変化に適応する能力や社会性を育成します。

(2) 確かな学力の習得 ～ 学びをつなぐ ～

9年間を見通した系統的・継続的な学習指導や学習習慣の確立を図るとともに、コミュニティ・スクールとの連携により地域人材を活用した授業を推進し、子供の学習意欲の向上や確かな学力の習得に努めます。

(3) 豊かな人間性の育成 ～ 夢・希望をつなぐ ～

各中学校区で積み上げた教育活動、児童生徒間の多様な交流や、コミュニティ・スクールでの地域との交流等により、豊かな人間性や思いやりの心を育みます。

(4) 地域を担う人材の育成 ～ 地域でつなぐ ～

コミュニティ・スクールを通して、家庭・地域・学校等が一体となった教育環境づくりを推進し、地域に愛着と誇りを持ち地域に貢献する人材を育成します。

(5) 教職員の指導力向上 ～ 教えをつなぐ ～

小中一貫教育コーディネーター^{*8}が中心となり、小中学校等の教職員が合同研修会や合同授業研修会等の交流を行うことを通して、相互理解を深め、9年間を見通した教育を展開し、子供一人ひとりの学びの保障に努めます。

3 推進形態

コミュニティ・スクールの活動をさらに充実させ、家庭・地域・学校等が連携・協働した「地域とともにある学校づくり」の充実を目指していきます。

各学校において、小中一貫教育を推進する担当教員を「小中一貫教育コーディネーター」として位置づけ、コミュニティ・スクールディレクターと連携しながら、小中一貫教育の更なる推進を図っていきます。

Ⅲ 具体的な取組

育てよう「主体性、思いやり、地域愛」
作ろう「子供を伸ばす機会やきっかけ」

1 取組内容

(1) 社会的資質の向上 ～ふれあいでつなぐ～

家庭・地域・学校の連携・協働により、子供たちの多様性を生かし、社会参加の機会を充実させる中で仲間と共に生きていく力を育て、自己肯定感（自尊感情）を高め、社会性を育成します。

① 育てたい子供像の共有化

- ・小中学校教職員だけでなく、保護者、地域にも育てたい子供像をさらに御理解いただくために、地域に配付する『大洲地区子育てカレンダー』を活用して発信します。
- ・大人は、一人一人の良さを生かし、伸ばすことを心がけながら、子供に関わります。

② 地域の人との交流機会の拡大

- ・地域の姿が手本となるよう、地域のイベント（ふれあい祭りやスポーツの集い）に小中学生や学生ボランティアが参加できる機会を作ります。
- ・中学生ボランティアの意見を企画にも反映させ、計画段階から反省会まで大人と一緒に活動することで中学生の参画意識を育てます。

③ ふじえだ型ピア・サポート活動の充実

- ・大人が手本となるよう、まずは大人の間力・人権感覚の向上を目指し、「大洲の子は、みんなの子」を合言葉に、誰とでも声を掛け合う雰囲気づくりに努めます。
- ・大人から子供への積極的な声かけを進めます。

④ 「“笑顔”であいさつ日本一」地域ぐるみで運動化

- ・まず大人の側が積極的・継続的なあいさつをし、子供たちに手本を示します。

⑤ コミュニティ・スクールの充実

- ・地域と学校が連携し、地域とともにある学校づくりを目指します。
- ・地域の大人が子供とふれ合う活動を通して、子供の社会性を育てることに努めます。

(2) 確かな学力の習得 ～学びをつなぐ～

① 主体的に学ぶ姿勢の育成

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」との一体的な学びの充実に重点をおき、子供の主体性を伸ばしながら「ひと・もの・こと」に関わることで学びを深めていく学習を計画的に実施します。

② 理科、算数・数学教育の系統的指導による論理的な思考力の育成

- ・理科では、本物に触れる、自分で確かめることを通して思考する楽しさを経験できるようにします。また、何度も試したり、納得できるまで考えたりする力を養います。
- ・算数・数学では多様な方法で問題解決できる場を大切にし、集団で問題を追求する楽しさを経験できるようにします。
- ・小学校での各年齢に合わせた専科制を進めることで、授業の専門性を高め、論理的、科学的思考力を育てます。

③ 英語教育の充実により実践的なコミュニケーション能力^{*9}を育成

- ・小学校での外国語学習を完全専科制にすることによって、より実践的なコミュニケーションをする力を育みます。
- ・中学校英語科担当、小学校外国語担当とALT^{*10}が情報交換を密にして、小学校3年からの外国語活動、高学年の外国語を中学校英語にスムーズに接続し、コミュニケーション能力の定着に努めます。

④ ICT機器の効果的な活用

- ・各教科の授業で、ICT^{*11}を効果的に活用し、子供たちの学びがより豊かで広がりのあるものとなるよう、小中で情報を交換しながら研究と取組を進めます。
- ・全ての教育活動の中で、子供たちがICT機器を効果的に活用することができるよう、取組を進めます。

⑤ 大洲らしさを打ち出した総合的な学習の時間の設定

- ・地域の施設を利用し、地域の協力を得ながら、地域に根ざした教育を進めます。
- ・従来それぞれで取り組んでいた福祉の学習や活動を、小中つなげてさらに充実させていきます。

⑥ 藤枝市小中一貫教育カリキュラム^{*12}の活用

- ・藤枝市小中一貫教育カリキュラムを活用し、中学校教員は小学校での学びを理解した上で、中学校での授業に取り組みます。小学校教員は、中学校で学ぶことを理解しながら小学校での授業に取り組みます。
- ・小中学校教員同士の情報交換を密にしながら9年間というスパンを意識して、日々の授業を充実させます。
- ・小学校から中学校への学習面での段差を少なくし、学習面での中1ギャップの解消に努めます。

(3) 豊かな人間性の育成 ～夢・希望をつなぐ～

① 大洲スタンダードづくり

・標語を使ってマナーを合言葉化し、広めます。

② おおきな声で明るく元気よくあいさつしよう

③ おもいやりの心で仲良く笑顔で生活しよう

④ すこやかな体は早寝早起き朝ごはんから

② 異年齢交流活動の強化（大洲こども園・わかば保育園・大洲小中学校）

- ・小学校児童会と中学校生徒会の交流活動をする中で、子供たちの中から自発的に生まれてくる活動を応援します。
- ・中学生による小学生への読み聞かせ活動を実施し、中学生は中学生としての自覚や下級生をいたわる気持ちを育みます。
- ・小中学生が一堂に会して感動や学びを共有できる共同学習を試みます。
- ・保育実習や職場体験、小中学校への探検・体験活動等を通じてこども園・保育園・小中学校間の連携を進め、大洲地区の子供たちの育ちを繋げる取組を進めます。
- ・小学6年生による中学校体験入学や、5・6年生保護者による中学校参観を計画的に実施することで、安心して進学に臨むことができる体制を作ります。

③ 地域人材等を活用した講師の派遣（先輩に学ぶ）

- ・地域の人材を、総合的な学習の時間や道德の授業等の外部講師として招き、地域に誇りを持ち、地域の一員としての自覚を育てます。



(小中合同あいさつ運動)



(地域について先輩から学ぶ)

(4) 地域を担う人材の育成 ～地域でつなぐ～

① 地域の一員としての自覚を醸成

- ・地域は子供に活動の機会を与え、地域の一員として認める機会を生み出します。（防災訓練・ふれあい祭り・スポーツの集い等）
- ・企画の中に子供の意見を取り入れたり、計画段階から反省会まで大人と一緒に子供も参加したりする中で、地域の役に立とうとする意識を育て社会のために貢献する人材を育成します。
- ・PTAの活動(大洲地区リサイクル活動)を小中合同で実施することによって、地区内の子供たちのつながりを大切にします。
- ・学校サポーターズクラブや地域諸団体と連携しながら、地域の人材が学校に関わる機会の拡大に努めます。

② 地域ぐるみのあいさつ運動

- ・まず大人が手本となり「笑顔」であいさつ日本一の運動化を図ります。

③ 地域への広報活動

- ・こども園、保育園、小学校、中学校、大洲地区合同の行事予定カレンダー『大洲地区子育てカレンダー』を作成し、大洲地区全家庭へ配付します。
- ・『大洲地区子育てカレンダー』に、大洲地区が子供に育てたい力や願いを行事予定と合わせて記載することで、大洲の子供たちを地域全体で育てるという意識の高揚に繋がります。



(大洲地区ふれあいまつり)



(中学生参加の地域防災訓練)

(5) 教職員の指導力向上 ～教えをつなぐ～

① 教職員の人権感覚の醸成

- ・教職員が人権感覚をさらに磨き、広く豊かな心を持った一人の人間として子供たちの前に立ち続けることができるよう全職員で努力します。

② 「育てたい子供像」に向けた共通理解の促進

- ・P D C Aサイクル^{*13}に基づき、子供たちの育ちを小中学校で確認する場として合同の教育課程編成会議等を開催します。

③ 小中学校合同研修会の充実

- ・定例の小中学校合同研修会（年3回）に加え、時代の流れに応じた課題の研修に努め、教員の授業力向上のため全教職員で研鑽します。
- ・授業づくりだけでなく、生徒指導・特別活動・特別支援教育など、多方面にわたっての交流を進め、日々の学校運営に反映させます。

④ 教職員の専門性の向上

- ・生活指導等について、小中学校合同で情報を共有し、丁寧な子供理解に努めます。
- ・教員を先進校の研究発表会や研修会等に派遣し、優れた実践に触れる機会を設け、大洲小中学校の教育に反映させます。



(小中合同教員研修会)

IV 計画年次

1 計画の期間

本計画は、令和6年度を初年度とし、令和10年度を目標年度とする5か年計画とします。

ただし、社会情勢の変化や国・県の施策と連動するため、基本的には5年後に見直しをしていきますが、上位計画である「第2期藤枝市小中一貫教育推進計画」と連動する中で、必要が生じた場合には随時改訂していきます。

V 資料

1 学校運営協議会委員

令和5年度大洲中学校区学校運営協議会委員名簿（敬称略）

	氏 名	所属団体等
1	村松 克明	学校運営協議会会長 大洲第一自治会長
2	大畑 與志郎	大洲第二自治会長
3	臼井 郁夫	大洲第三自治会長
4	朝比奈 利憲	大洲第四自治会長
5	有ヶ谷 寛	民生児童委員会会長
6	浅賀 貴子	主任児童委員
7	平田 加奈子	前大洲小学校PTA会長
8	紅林 定宏	前大洲中学校PTA会長
9	上田 麻衣子	大洲小学校PTA会長
10	大相 敦子	大洲中学校PTA会長
11	小原 志信	大洲こども園長
12	中原 直子	わかば保育園長
13	安達 剛正	大洲地区交流センター長
14	山本 真理	大洲小学校長
15	杉本 好基	大洲中学校長
16	中野 明子	大洲小学校教頭
17	岩本 昭恵	大洲中学校教頭
18	内藤 博美	コミュニティ・スクールディレクター 大洲地区地域学校協働活動推進員

2 用語解説

アルファベット

A L T（外国語指導助手）【P8 ＊10】

Assistant Language Teacher の略。生きた外国語を子供たちに伝えるため、中学校の英語（外国語）授業や小学校の外国語活動の助手として、日本人教員と協働で外国語指導を行う外国の人のこと。

I C T（アイシーティー）【P8 ＊11】

Information and Communication Technology の略。コンピュータや情報通信ネットワーク（インターネット等）などの情報コミュニケーション技術のこと。社会の情報化が急速に進展する中で、学校においても、コンピュータやインターネット、デジタルカメラ、タブレット、電子黒板等の I C Tが多様な学習のための重要な手段として活用されれば教育の質の向上が図れると期待されている。

P D C Aサイクル【P11 ＊13】

典型的なマネジメントサイクルの1つで、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Act）のプロセスを順に実施する。
教育施策においては、目標を明確に設定し（Plan）、実施し（Do）、その成果を客観的に検証し（Check）、その結果を改善して次の教育施策に反映させる（Act）という循環サイクルのこと。

か 行

学校サポーターズクラブ【P4 ＊5】

学校を支援するため、学校が必要とする活動について、地域の方々をボランティアとして派遣する組織。家庭・地域・学校等が一体となって地域ぐるみで教育に取り組む体制の構築を目的としている。

コミュニケーション能力【P8 ＊9】

国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力、世代間コミュニケーションの問題を克服する能力、楽しい学校生活を送るための人間関係を形成していく能力など、これからの時代を生きる子供たちにとっての基礎的な能力。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）【P5 ＊6】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、各教育員会が地域住民、保護者などにより構成される「学校運営協議会」を設置し、学校運営や学校の課題に対して、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、協議し、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え、「地域と共にある学校づくり」を進める仕組みのこと。

さ 行

小中一貫教育コーディネーター【P6 ＊8】

小中一貫教育を中心となって推進していく学校内の担当をいう。令和4年度から藤枝市内全小中学校にこの担当を配置している。コミュニティ・スクールディレクターと連携し、学校間や学校と地域とを繋ぐ。

小中学校連携ドリームプラン事業【P2 ＊1】

児童生徒の確かな成長のため、地域での9年間を意識し、同一中学校区の小中学校が連携して取り組む藤枝市独自の事業。子供たちが夢を持ち、教員にとっても教育研究となることを目的としている。

自己肯定感【P6 ＊7】

ありのままの自分を認め受け入れる感覚のことで、自分の存在そのものに対する評価のことをいう。「自分が自分であって大丈夫」と、自分を肯定的に受け入れる心の状態を示す。同義語に自尊感情、セルフ・エステームなどがある。

た 行

中1ギャップ【P3 ＊2】

小学校から中学校に進学したときに、学習や生活の変化になじめず、いじめや不登校などのさまざまな困難を抱えてしまう生徒が増える現象のこと。いわゆる「問題行動等調査」の結果を学年別に見ると、小6から中1で不登校数等が急増するように見えることから使われ始めた。

な 行

乗り入れ授業【P3 ＊3】

中学校教員が小学校で教科担任をしたり、ティームティーチングで指導を行ったり、小学校教員が中学校で授業を行うこと。

は 行

ふじえだ型ピア・サポート活動【P4 ＊4】

児童生徒同士など同じ立場の仲間同士で思いやり支え合う実践活動。
子どものコミュニケーション能力や、思いやりの心を育むことを目的とした、子ども自身が自発的に行う活動。ボランティア清掃から友達への声かけといったさりげないものまで、「人のためになる、仲間を助ける活動」のことを指す。藤枝市では市内全校で「思いやり溢れる学校」をめざして、ピア・サポート活動に取り組んでいる。

藤枝市小中一貫教育カリキュラム【P8 ＊12】

本市で伝統的に取り組んでき藤枝型授業を意識し、平成29年3月に改訂された新学習指導要領をベースに市内教職員を中心に作成した小中学校9年間における教科の教育内容計画。

本市が取り組む小中一貫教育を推進する1つの柱として、学習指導のつながりを明確にし、基本的な知識及び技術の確実な習得を目指すと共に全教職員が9年間を見据えた質の高い指導を行うことができるよう全教科と特別支援教育分野で作成。本市教職員全員に配布している。



(地域の方のミシンボランティア)



(総合的な学習 地域との連携)



(地元読み聞かせサークル『ひまわりの会』との連携)



(中学生による小学校あいさつ運動)

令和6年3月

大洲中学校区学校運営協議会